MIDORI with Festival Strings Lucerne

11歳でズービンメータ・ニューヨーク・フィルとの共演で“天才少女”として鮮烈なデビューを飾って以来、クラシック音楽界の第一線で活躍し、繊細かつ優美な演奏で世界中の聴衆を魅了してきた五嶋みどり。今回共演するのは、ヨーロッパ屈指の名門として知られ、今年創設70周年を迎えるルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団。数々の超一流演奏家との共演を重ねてきたこの名門とともに、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を披露する、感動の特別公演。

© Nigel-Parry

五嶋みどり（ヴァイオリン） *MIDORI, Violin*

比類なき芸術性と社会貢献の精神を兼ね備えたアーティスト・教育者、五嶋みどりは、音楽の本質と人間の深い経験との関係性を探求し、芸術の新たな価値を創造し続けている。NYフィルとの衝撃的なデビューから40余年、世界の著名な音楽家たちと共演を重ね、将来を見据えた委嘱プロジェクトや現代曲へのアプローチなど、今日のクラシック音楽を牽引するヴァイオリニスト“MIDORI”は、20歳で設立した「ミュージック・シェアリング」（日本）と「Midori&Friends」（米国）を主軸に、音楽家による社会貢献のロールモデルを自ら体現し、あらゆる人々に“本物の音楽”を届け続け、その活動を次代に継承する。2007年に国連ピース・メッセンジャーを拝命。カーティス音楽院のほか、2025年秋よりジュリアード音楽院大学部門でも後進の育成に携わる。サントリー音楽賞（1993年）、グラミー賞最優秀クラシック・コンペンディアム賞（2013年）等国際的な受賞歴多数。愛器はグァルネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」（1734年製）。

ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団

FESTIVAL STRINGS LUCERNE

1956年の創立。創設期はヴォルフガング・シュナイダーハン、ルドルフ・バウムガルトナーによる、チェンバロを伴う弦楽アンサンブルとして活動。2012年からはダニエル・ドッズが芸術監督を務めている。

ルツェルン音楽祭のゲスト出演のほか、ウィーン楽友協会、ベルリンのフィルハーモニー、アムステルダムのコンセルトヘボウなど一流コンサートホールで定期的に演奏している。エレーヌ・グリモー、ダニール・トリフォノフなどの著名な音楽家との共演やキアン・ソルタニ、ヤン・リシエツキなどの若い世代の音楽家との共演も重ねている。特にルドルフ・ブッフビンダーと五嶋みどりとは緊密なパートナーシップを結んでいる。2020年には五嶋みどりとのベートーヴェン・アルバムをリリースしている。

ルツェルン・フェスティバル・ストリングスとして活動しているが、今回は管打楽器を伴うルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団として特別編成で来日する。

© Fabrice Umiglia

ダニエル・ドッズ（リーダー） *DANIEL DODDS, Rider*

ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団芸術監督。2000年よりコンサートマスターを務め、2012年より芸術監督に就任。ソリストとしてズービン・メータ、ウラディーミル・アシュケナージなどと共演。同楽団創設メンバーのバウムガルトナーのマスタークラスを修了。現在、ルツェルン音楽祭のソリストおよび芸術監督や客演コンサートマスターとして活躍している。使用楽器は、ルツェルン音楽祭弦楽器財団から提供された1717年製のストラディヴァリウス "Hämmerle-Baumgartner "とモニカ・ヴィドマー・ルツェルン財団から提供された1680年頃のストラディヴァリウス “Seillière”。